

至自		昭							年 月 日	
19 1919		19	19	19	19	19	19	19		
10	108	8	8	7	6	5	3	3		
中旬	中旬 ²⁰	19	17	下旬		下旬		5	1	
内地帰還のため漢口出發		桂林作戰参加		漢口着		中津村出發、太刀洗、上海經由				飛行第二二戰隊 (隼第一八九一三部隊)
						空 中 移 動		昭一八、一二、二七、軍令陸甲第一二一号に依り編成着手 東京都福生において臨時編成完結 神奈川県愛甲郡中津村に移駐同地において教育訓練実施		
				比島「ルソン」島着		転進のため出發		整備隊の一部船舶輸送により比島に転		略 歴
						地 上 移 動				
										摘 要

20	19	19	19
1	12	10	10
12	6	18	中旬
<p>上海經由中津村着 比島派遣のため中津村出発 太刀洗、上海、屏東、經由比島 「クラーク」地区「サンマリセリネ」 飛行場着同日より「レイテ」作戦に 参加 一部「ネグロス」島に移動</p>			
<p>「クラーク」地区「サンマリセリネ」 飛行場付近において整備業務に従事 一部「ネグロス」島に移動 玉井少尉以下「ルソン」島整備隊の 行動 「バンバン」飛行場に転進し第七二 戦隊に協力 北部「ルソン」島へ転進のため「バ ンバン」飛行場出発（福井伍長以下 数名は病気のため残留以後不明）</p>			

20	20	20	20	20	20
2	2	2	2	1	1
20	中旬	11	下旬	28	27
雁の巣着			台湾嘉義經由	内地に帰還し戦力を回復するため 「ネグロス」島及び「クラーク」出	
警備並びに自活	「タブラク」より「カラン」へ移動	部落附近に移動警備並びに自活	行動「カハヤン」より「ダブラク」	玉井少尉以下「ルソン」島整備隊の	行い全員玉砕
				高木中尉以下「ネグロス」島「マナ ブラ」飛行場に残置者は斬込戦斗を	一部は「カラン」地区の討伐に出勤
				次期作戦準備並びに自活	北部「ルソン」島「イサベラ」州 「ハヤシ」着

20	20	20	20	20	20	20	20
3	3	3	3	3	3	3	2
30	25	24	23	20	5	2	21
	爾後防衛及び警備に従事	徐州飛行場着	地上部隊全員輸送機により移動	主力転進のため金浦出發		京城金浦第二飛行場着	朝鮮水原着 中津村出發 中津村着
	大原曹長以下の行動						
	「ツゲガラオ」飛行場着輸送用飛行			發	臨時第六野戦補充隊を編制せられ第一〇中隊に充用さる		
				大原曹長以下三四名大本營緊急命令に依り本土転進のため「カラン」出發			

20	20		20		20	20	20	20
9	8	8	8		6	5	4	4
2	15	2	2		18	上旬	10	5
<p> 転進のため徐州出発 京城飛行場に着 晋州において停戦 </p>								
<p> 機を待つも来らず 「ツゲカラオ」出発、「アパリ」に 向う 「サンタマリヤ」着輸送船を待つも 来らず 一部一〇三師団の糧食輸送に従事 「サンタマリヤ」出発「ドモン」河 上流に移動 比島において終戦 終戦に伴い戦斗行動を停止し米軍に より武装解除されたる後收容所に入 </p>								

							20	20
							10	10
							7	6
						歴代部隊長	仙崎港上陸、復員	主力釜山港出發
初代	少佐	峯橋讓二						
二代	少佐	難波茂樹						
三代	少佐	坂川敏雄						
四代	少佐	上原重雄						
五代	少佐	神保進						
六代	少佐	北島栄一						
								る

		自 至				昭		年 月 日	略 歴	略 歴
		20	20	20	20 19	19	19			
同	4	3	3	1	12	10	10			
日	12	29	28			30	11			
								摘要		

		20	20
		9	8
		1	15
		復員。	終戦。
	歴代部隊長		
	初代 少佐 藤田重郎 (20 2 16 戦死)		
	二代 少佐 谷口正彦		

										昭	昭	年 月 日										
					至自	至自				13	13											
					16	1414				7	7											
12	11	11	11	11	9	6	6	5	9	9	7	7										
5	30	26	23	20	1519	1012	22	1														
<p style="text-align: center;">飛行第二四戦隊 (誠第九六〇二部隊)</p> <p style="text-align: center;">略歴</p>													空	中	移	動	地	上	移	動	略	歴
<p>台湾屏東着</p> <p>台北經由</p> <p>北京、南京</p> <p>海拉爾出發</p> <p>大連着</p> <p>大連港出發</p>													摘要									

17													
1	1	1	1	1	1	12	12	12	12	12	12	12	
25		21	18	12	10	31	30	23	17		16	10	6
<p>満州海拉爾着</p> <p>屏東出発</p> <p>「ナギリアン」出発、台湾屏東着</p> <p>着</p> <p>「ラオアグ」出発、「ナギリアン」</p> <p>着</p> <p>屏東出発「ルソン」島「ラオアグ」</p>													
<p>台湾基隆港上陸</p> <p>屏東着</p> <p>高雄港出発</p> <p>「ラオアグ」上陸</p> <p>「ラオアグ」出発</p> <p>「ナギリアン」着</p> <p>「ナギリアン」出発</p> <p>高雄港上陸、屏東着</p> <p>屏東出発</p> <p>基隆港出発</p> <p>下関港上陸、同日下関港出発</p>													

													17
9	8	7	7	7	7	7	6	6	4	4	1	1	1
15	5	26	25	15	14	11	13	12	27	26	29	27	26
廣東出發	屏東出發、廣東着	台灣屏東着			北京、南京、上海經由	海拉爾出發		衙門屯出發、海拉爾着		海拉爾出發、衙門屯着			
		黃埔港上陸、同日廣東着		大連港出發	六連着	海拉爾出發	海拉爾着	衙門屯出發	衙門屯着	海拉爾出發	海拉爾着	鮮満国境安東通過	釜山港上陸

								18			17
11	11	7	7	6	6	5	5	5	10	9	9
3	1	10	5	18	4	24	18	上	11	28	25
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>「ウエワーク」出発、「メナド」着</p> <p>「メナド」出発、「マニラ」着</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>東部「ニューギニヤ」転進</p> </div> </div>											
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>陸</p> <p>「ニューギニヤ」</p> <p>「ウエワーク」上</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>「パラオ」港寄港</p> <p>「パラオ」港出発</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>「スラバヤ」港寄港</p> <p>「スラバヤ」港上陸</p> <p>「バレンバン」港寄港</p> <p>「バレンバン」港出発</p> <p>「バレンバン」上陸</p> <p>廣東出發、黃埔港出發</p> </div> </div>											

19											18	
3	3	3	2	1	1	1	1	12	11	11	11	11
18	16	1	25	24	20	3	2	17	20	10	6	5
<p>千島転進のため芦屋出發、所沢着</p> <p>編成完結</p> <p>軍令陸甲第一三号在内地陸軍航空部隊改変要領により編成改正着手</p>											<p>屏東出發、芦屋着</p> <p>「マニラ」出發、台湾屏東着</p>	
<p>芦屋出發</p> <p>帯広着</p> <p>主力帯広出發</p> <p>所沢着</p> <p>(一部千島に前進、爾後の行動後記</p>											<p>芦屋着</p> <p>宇品港上陸</p> <p>「パラオ」港出發</p> <p>「ウエワーク」港出發</p> <p>「パラオ」港寄港</p>	
<p>千島に向 転進途中 都防空の 命を受く</p>												

													19
8	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	3
上	中	19	9	2	27	下	17	15	13	12	10	上	18
「セレベス」島「ランゴアン」に転	「ハルマヘラ」島「ワシレ」に転進					西部「ニューギニヤ」に転進	ナ」着	「クラークフィールド」出發「マリキ	屏東出發「クラークフィールド」着	新田原出發、屏東着	下志津出發、新田原着		所沢出發、下志津着
													のとおり)
													南海転進のため下志津出發
													同上
													宇品港出發
													基隆港上陸
													基隆港出發
													「マニラ」上陸

		至自	至自	至自						
21				2020	19					
2	8	8 6	6 3	3 2	9	9	8	8	8	
15		1521	2026	25 7	下	1	31	15	上	
基隆港出發		終戦	戦力回復	台湾台北、宜蘭に在りて防空並びに	号航空作戦に参加	琉球列島石垣島、宮古島に在りて天	参加(船団掩護)	南支に転進、二〇年第一期航空作戦	「マカツサル」に転進	進
									「マニラ」港出發 「セレベス」島「メナド」上陸 「ランゴアン」着 「ランゴアン」出發「マカツサル」 に転進	
									以下地上移動状況不詳	

							19	21
	6	5	5	5	3	3	2	2
							25	20
							<p>○19、3千島に転進した一部の行動</p>	<p>鹿兒島港上陸</p> <p>復員</p> <p>注：南方残置隊の地点、日時等は不明であるが、20、9、2終戦に伴い戦斗行動停止、爾後生存者は所在の地点で武装解除され米軍収容所に収容される。</p>
							<p>芦屋出發</p> <p>小樽港出發</p> <p>北千島幌筵島上陸</p> <p>幌筵島出發</p> <p>小樽港上陸</p> <p>門司港出發</p> <p>比島「マニラ」上陸</p> <p>部隊主力に追及</p>	

1542

			歴代部隊長名
			初代 中佐 松村 黄次郎
			二代 少佐 樽原 秀見
"	少佐	中佐	"
庄司 孝一	田代 正一	横山 八男	高橋
(19、12、30以降)	(18、8、9以降)	(18、3、1以降)	(18、2まで)

至自 昭											年月日	略歴	摘要	
20	20	20	20	20	20	20	19	19	19	17				17
8	8	7	7	5	2	1	5	4	3	10	10			
25	15													
<p>晋州（南鮮）に移動し自活態勢を整う。</p> <p>停戦。</p> <p>一部は齊州島に前進。</p> <p>朝鮮中部水原に移駐。</p> <p>北京に移動、防空任務に服す。</p> <p>南京に移動、防空任務に服す。</p> <p>上海に移動、防空任務に服す。</p> <p>白螺磯に展開し潮南作戦に参加、引続き中支要地防空任務継続。</p> <p>運城、新郷等に展開し河南作戦に参加。</p> <p>主として漢口南京に位置し要地防空および地上作戦に協力す。</p> <p>漢口において独立飛行第一〇中隊を基幹として編成完結（本部および三ヶ中隊）</p>														

飛行第二五戦隊
(隼魁第二三八七部隊)

略歴

	20	20
	10	10
	7	5
<p style="text-align: center;">部隊長 少佐 金沢知彦</p>	<p>仙崎上陸、復員。</p>	<p>釜山にて乗船。</p>

									昭	年月日	飛行第二六戦隊 (誠第八三九九部隊)	
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17			略
11	11	11	11	11	11	10	10	9	9			
16	14	13	9	3	1	29	2	2	2			
南京出発上海着				北京出発南京着				京着		衛門屯出発奉天→満支国境通過同日北		略
								空中移動		満洲衛門屯において編成完結。		
								地上移動		軍令陸甲第七五号により編成下令。		
				釜山出発				釜山着		比島転進のため衛門屯出発		略
				釜山出発				釜山着		鮮満国境通過		
										摘要	略	

19	19	19	18	18	17	17	17	
10	4~5	2	2	10	11	11	11	
		18	13	29	23	24	20	
第九飛行師団長の命により戦隊主力は第四航空軍司令官の指揮下に入るため	昭南出発「スマトラ」島「ゲルンパン」着。	昭南「テナガ」飛行場着。	「ブーツ」出発。	「ニューギニヤ」「ブーツ」着。	第一中隊「マニラ」残置（爾後の行動後記）	主力転進のため「クラークフィールド」出発	にありて防空に任ず。	爾後第一中隊を「マニラ」に本部、第二中隊、第三中隊は「クラークフィールド」
						比島「ルソン」島「クラークフィールド」	着	上海出発、屏東着
								屏東出発比島「ルソン」島「クラークフィールド」着

20	20	20	20	20	20	19	19	19
3	3	2	2	2	2	12	12	11
4	1	23	12	5	4		13	23
<p>「スマトラ」島「ベトン」飛行場出発</p> <p>「ボルネオ」島「クチン」「ポートプリンセナ」「サフラン」を経て比島ネグロス島「フアブリカ」着</p> <p>爾後「レイテ」航空作戦に参加。</p> <p>戦力恢復のため「フアブリカ」出発「クラークフィールド」着、「サフラン」及び「フアブリカ」に一部残置。</p> <p>「クラークフィールド」出発。</p> <p>新田原着。</p> <p>新田原出発沖繩經由。</p> <p>台湾宜蘭着。</p> <p>宜蘭出発台中着。</p> <p>台中出発広東天河飛行場着。</p> <p>天河出発、海ロ―黄龍經由。</p> <p>「ツーラン」着「サイゴン」―「ブノンベン」―「ドムアン」經由。</p>								

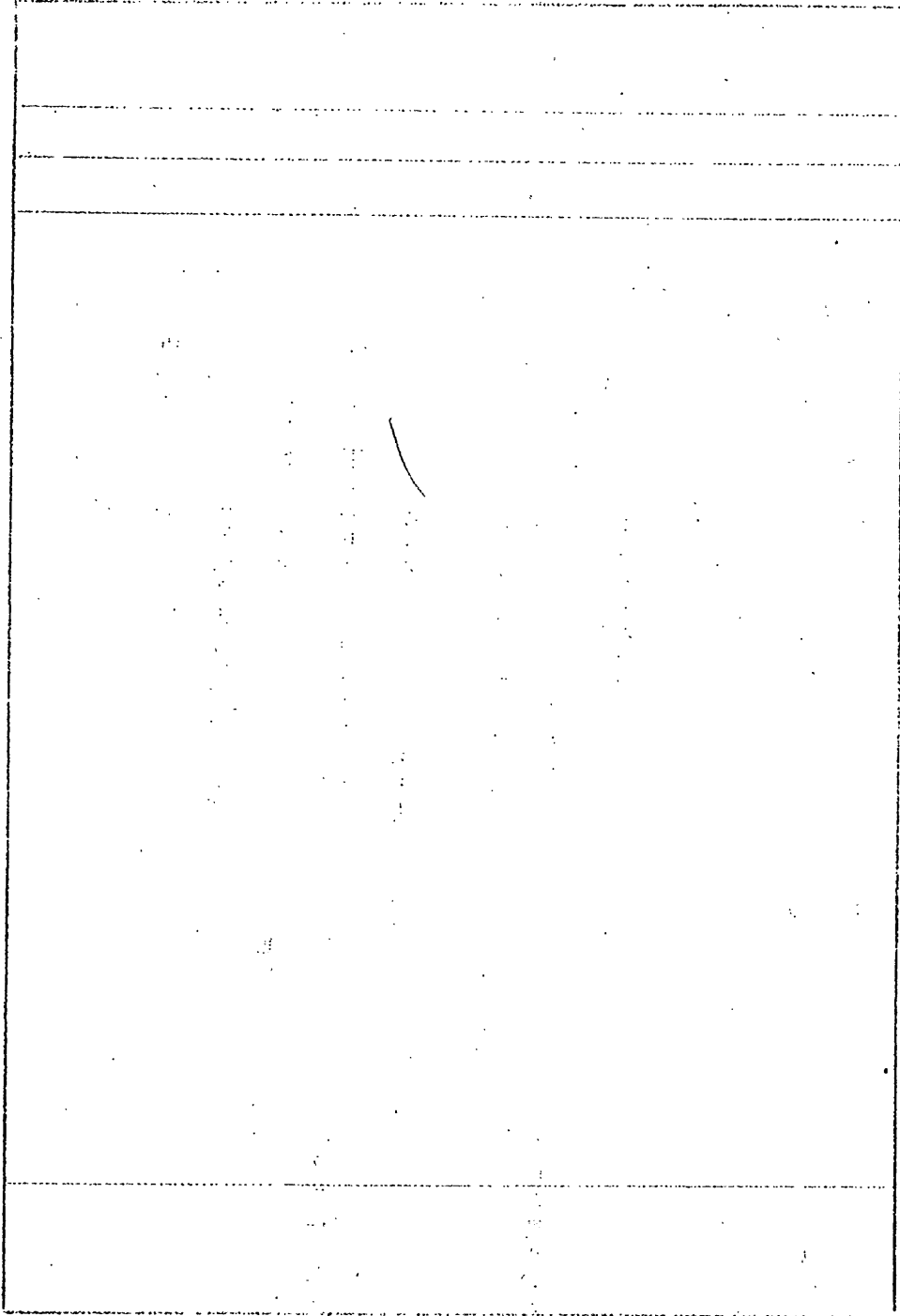
												昭
18	18		21	21	21	20	20	20	20	20	20	20
10	10	同	3	2	1	10	9	7	7	7	6	3
31	6	日	5	28	3		2	6	5	4	30	
<p>昭南着。</p> <p>昭南出発「サイゴン」着。</p> <p>「サイゴン」出発、広東着。</p> <p>広東出発、屏東着。</p> <p>屏東出発、台東着。</p> <p>台東において終戦。</p> <p>台東において武装解除。</p> <p>帰還のため部隊主力台東出発。</p> <p>基隆港出発。</p> <p>田辺港上陸。</p> <p>部隊主力復員。</p> <p>○「マニラ」残置第一中隊の行動</p> <p>主力(空中部隊)「スマトラ」転進のため「マニラ」出発「バレンバン」着。</p> <p>一部(整備員)船舶輸送により「マニラ」出発「シンガポール」を経て「バレ</p>												

四

19	19	19	19
11	10	5	2
23	下	下	中
<p>後地上軍の指揮下に入り終戦に至る。</p> <p>○「サフラン」「フアブリカ」残置隊の行動</p> <p>「サフラン」残置隊及び「フアブリカ」残置隊は主力戦力回復のため内地帰還</p> <p>島「フアブリカ」部隊主力に合流す。</p> <p>「スマトラ」島「ゲルンバン」に転進部隊主力に合流。</p> <p>「レイテ」作戦参加のため「ボルネオ」を経て「マニラ」に転進後「ネグロス</p> <p>後同地付近の防空に従事。</p> <p>仏印「ハノイ」転進</p> <p>ンバン」着。</p>			
<p>歴代部隊長</p> <p>少佐 坂口 唯雄</p> <p>少佐 永田 良平</p>			

四三

四三



1551

									昭
									年
									月
									日
13	13	12	12	12	12	12	12	12	12
8	1	11	10	8	7	7	7	7	
1					23	22	19		
<p>彰徳飛行場転進。</p> <p>（北支各地の主として京漢沿線の地上作戦参加）。</p> <p>軍令陸甲第二七号により編成改正し飛行第二七戦隊と改称。</p> <p>石家莊東飛行場転進</p> <p>保定飛行場転進。</p> <p>南苑飛行場転進。</p> <p>平壤出発鮮満国境通過同日天津着。</p> <p>太刀洗出発、同日平壤着。</p> <p>立川飛行場出発、太刀洗着。</p> <p>近衛師団第一九動員二号により立川において飛行第一大隊編成完結。</p>									略
									略歴
									摘要

飛行第二七戦隊
(威第九一二三部隊)

略歴

14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	13	13	13
9	9	8	7	7	7	11	11	10	10	9	9	9
13			15	10	5	14	9	5	2	29	24	
空中移動 南支転用のため広東に転進												
延吉着	南苑出発		南苑着	青島上陸	広東出発	広東上陸	三竈島出発	三竈島上陸	高雄出発	高雄上陸	青島出発	
地上移動												

													至	自
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	14
12	11	11	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	8
5	25	24	4	3	1	28	24	22	20	18	17			
一「コンボントラッシュ」經由「ソン 広東出発海南島三亜仏印「ソーラン」													間島省延吉に駐屯。	
													延吉出発滿支国境通過	
													編成完結。	
													応急派兵下令。	
													広東着	
													延吉出発	
													関東州界通過	
													大連出発	
													広東省黄浦港上陸	
													広東着	
													南方派遣のため広東出発	
													黄浦港出発	

四五

17	17	17	17	17	16	16	16	16	16	16	
1	1	1	1	1	12	12	12	12	12	12	
20	17	15	7	2	22	21	20	19	13	8	
「クアランブル」着		「クアンタン」着		「イポー」着			イパタニ」着	「ナコンスリタムラード」出発	ムラード」着	「ソクラーム」出発	「ナコンスリタムラード」着
											秦國「パタニ」上陸
											「パタニ」出発
											秦馬来国境通過
											馬来「スンゲイパタニ」着
											「イポー」着
											「クアランブル」着

四四

17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	1	
25	23	18	14	7	2	27	24	13	7	29	
「ガ」着	「カリヂヤージ」出発、昭南島「テン				「クルアン」出発、「パレンバン」着			「クルアン」着		「ラビス」着	
					「パレンバン」出発、ジャワ島「カリヂ			「スマトラ」島「パレンバン」着		「クルアン」着	
					ヤージ」着			「タンジュンカラ」着			
					「パレンバン」出発						
					「ジャワ」島「バタビヤ」上陸						
					「バンドン」着						
					「カリヂヤージ」着						

昭												
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
7	7	7	6	6	6	6	6	5	4	4	4	4
6	5	1	24	15	13	12	10	3	28	22	20	18
「サイゴン」着	満洲移駐のため「テングー」出発	着	「サイゴン」出発 昭南島 「テングー」	「バンコック」出発 「サイゴン」着	「バンコック」着		「トングー」出発				「トングー」着	「テングー」出発
		「テングー」着	「ラングーン」港出発		「ラングーン」着	「トングー」出発		「トングー」着	昭南出発	「ビルマ」「ラングーン」上陸		「カリヂャージ」出発 不詳 昭南着

18	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
8	10	10	10	8	8	8	8	7	7	7	7	7
31	22	15	12	13	6	3	2	29	26	22	12	8
移駐のため延吉出發衙門屯着	北安出發、延吉着			公主嶺出發北安着				北京出發滿支国境通過公主嶺着	北京着	由	海口出發 広東→嘉義→台北→南京經	「サイゴン」出發、海口着
		延吉着	北安出發			北安着	関東州界通過	大連上陸			昭南出發	

20	20	19	19	19	19	19	19	19	19	18	18
2	1	7	7	6	6	5	5	5	5	9	9
	18	20頃	9	29	1	下	27	25	12	10	
内地帰還	戦力回復のため主力「クラーク」出発同日台湾着（一部残置行動概要後記）	島「サラビヤ」に展開	「クラークファイル」発「ネグロス」	比島「クラーク」着	東経て	杭州出發 台湾新竹→台北→嘉義→屏	杭州着	奉天→北京→濟南→南京→経て	比島派遣のため衙門屯出發		
						衙門屯出發			衙門屯着	延吉出發	

四六

	20	20	20	20	20
	9	2	1	7	3
	2	下		15	下
歴代部隊長	終戦に伴い戦斗行動を停止爾後生存者は所在の地点で武装解除された後米軍収容所に入る。	爾後臨時歩兵第一五大隊臨時第七野戦補充隊第一〇四特別挺進隊に配属され地上戦斗に参加終戦に至る。	第四航空軍直轄部隊となり「カガヤン」に集結。	飛行第四五戦隊「ルソン」島残置隊長指揮の下に「ツゲカラオ」「エチアグ」に移駐。	昭2055軍令陸甲第七七号により部隊復帰。
少佐 高橋安夫					
少佐 後藤清敏					

		昭		年月日	略	略	略	略	略
	16	16	16	14					
	7	7	3	6					
	30	25							
	<p>満州新京において編成完結</p> <p>軍偵一中・司偵一中・直協一中</p> <p>寧安県温春において司偵二ヶ中隊に改変</p> <p>第一中隊（飛行第二八戦隊の司偵中隊）</p> <p>第二中隊（飛行第二九戦隊より一司偵中隊編入）</p> <p>飛行第二八戦線の軍偵中隊及び直協中隊は飛行第二九戦隊に転出。</p> <p>動員下令</p> <p>飛行第二八戦隊を次の戦時編成に改変</p> <p>第二八独立飛行隊本部（旧本部）</p> <p>独立飛行第八一中隊（旧第一中隊）</p> <p>独立飛行第六三中隊（旧第二中隊）</p>								
	<p>摘要</p>								

	19	19	19	18	17
	4	4	1	3	12
昭					
飛行第二八戦隊の中に第三中隊を新たに編成し独立飛行第八二中隊となる。					
独立飛行第六三中隊は第六航空軍に編入され「ニューギニヤ」に転進南方作戦に参加。					
作戦中潰滅的損害をうけ中隊長以下空中勤務者殆んど戦死す。					
独立飛行第八二中隊は独立飛行第六三中隊の補充として第六航空軍に編入され「ニューギニヤ」に転進比島作戦に参加。					
地上勤務者の主力は「ニューギニヤ」に輸送途中台湾南方海上において敵潜水艦の魚雷攻撃により殆んど生死不明となる（久保田准尉以下四名生存、高雄病院に入院後本隊に追及）					
独立飛行第六三中隊「ニューギニヤ」より満州に帰還す。					
第二八独立飛行隊本部、独立第六三中隊、独立第八十一中隊の戦時編成を解き飛行第二八戦隊に復帰改変。					
本部					
第一中隊					

	20	20	19	19	19	19	19
	9	7	11	10	10	9	5
	1		下	下			
<p>第二八戦隊長 少佐 上田 秀夫 (1912.4.20 - 1915.7.15)</p> <p>第二八独立飛行隊長 少佐 江頭 多</p>	<p>部隊長</p>	<p>復員。</p>	<p>昭和二〇、七、一〇軍令陸甲第一〇三号により第二八独立飛行隊と称号変更。</p>	<p>千葉県東金に移駐。</p>	<p>第一航空軍に編入され東京調布に転進。</p>	<p>部隊主力北支より満州温春に帰還。</p>	<p>(一部布施大尉以下温春に残置)</p>
						<p>第二中隊</p>	<p>一部(第一中隊)を鞍山に派遣す(約一ヶ月)</p>
						<p>部隊主力北支済南に転進</p>	

昭	14	15	16	19
年				
月	7	8	7	2
日	15		29	5
飛行才二九戦隊 略歴				
(誠才九一六三部隊)				
昭14年7月15日	<p>岐阜県各務原に於て編成完結 朝鮮会寧に移駐 一部満州海威爾に派遣し「ノモンハン」事件に参加(約一ヶ月間) 朝鮮咸興に移駐 臨時編成下令</p>			
昭15年8月7日	<p>飛行才二九戦隊を才二九独立飛行隊本部、独立飛行才六六中隊、同八七中隊に改変</p>			
昭16年7月29日	<p>軍令陸甲才一〇〇号により才二九独立飛行隊本部、独立飛行才八七中隊同才九〇中隊を満州海林に於て飛行才二九戦隊に改変復帰</p>			
昭19年2月5日	<p>軍令陸甲才一二〇号により一部の人員資材を才五六飛行場大隊より転入して編成改正</p>			
昭19年3月5日	<p>杏樹に移駐</p>			
摘要				

													昭
19													19
8	8	8	7		7	7	7	7	7	6	6	6	6
26	14	13	21		14	13	12	10	3	22	19	14	13
中文武昌着	中文派遣のため小港出発	台北出発、小港着		爾後台湾本土防空警備に任ず	台中出発、台北着		上海出発、台湾台中着	濟南出発、上海着	杏樹出発、北支濟南着				
	小港着	台北出発	基隆港上陸		門可港出発			門可港上陸	金山港出発	鮮滿国境個們通過			南方派遣のため杏樹出発

自 至								自 至									
21				20													
2	2	2	8	6	3	3	11					11	10	10	10	10	8
20	16	13	15	20	26	15	18					8	28	27	26	26	26
<p>鹿兒島港上陸</p> <p>内地帰還のため主力基隆港出発</p> <p>復員下令</p> <p>終戦</p> <p>台湾並びに南西諸島方面に於ける天号航空作戦に参加</p> <p>桃園出発、台中着</p> <p>「クラーク」出発、台湾一部比島に残置桃園着</p> <p>に参加</p> <p>爾後「クラーク」及び「マニラ」地区に於てオ二次比島及び濠北作戦</p> <p>着</p> <p>桃園出発「ルソン」島「クラーク」</p>								<p>中支に在りて後期航空作戦に参加</p> <p>武昌出発、小港着</p> <p>小港出発、桃園着</p> <p>桃園着</p> <p>小港出発</p>									

	20
	9
	2
	<p>◎比島残置隊の行動</p> <p>終戦に伴い戦行動停止、爾後生存者は所在の地点で武装解除されたのち米軍収容所に収容さる</p>

			昭和			年月日	略歴	摘要
			1918	1919	1919			
			6	10	6			
			8	25	30			
			昭和一八、七、二一軍令陸甲第七一号により満州において本部及び襲撃一中隊を飛行第六戦隊より襲撃一中隊を飛行第三二戦隊より襲撃一中隊を飛行第六五戦隊より編入せしめられ編成完結。					
			敦化に移駐。					
			南方派遣下令					
			空中移動					
			佳木斯に移動					
			地上移動					
			敦化出発、同日鮮満国境通過					
			釜山出発					
			門司上陸					
			門司上陸					

至	自						昭	
19	19	19	19	19	19	19	19	
9	9	8	8	8	7	7	7	7
14	12	下	15	1	27	16	12	7
「ネグロス」島邀撃作戦に参加。		島「ダラック」「ネグロス」島「マナベラ」。		展開地「セレベス」島「メナド」「ミンダナオ」島「デルモンテ」「レイテ」		「ハルマヘラ」作戦の目的をもつて地上部隊を各地に展開		戦隊全員「マナベラ」飛行場展開完了。
				一部「マナベラ」着		「ネグロス」島「フアブリカ」着		佳木斯出発
				「ネグロス」島「バゴロド」上陸同日		「フアブリカ」着後「マナベラ」前進		
				「マニラ」上陸		「マニラ」出発		
						比島「ルソン」島「クラーク」地区		
						「アンヘレス」飛行場着		

至自 20 20	20	20	至自 20 19 19	20 19 19	19 19 19
4 2	5	不	1 1 1	1 12 11	10 10 9
下上	30	明	中	12 9 6	31 上 14
<p>「ルソン」島防衛作戦参加。</p> <p>○「ルソン」島残置隊（約一〇〇名）の行動</p> <p>各残置部隊はそれぞれ現地部隊に転属。</p> <p>軍令陸甲第七七号により部隊復帰</p> <p>屏東着。</p> <p>主力及び地上勤務員の一部台湾に転進。</p> <p>「リンガエン」湾作戦参加。</p> <p>「ルソン」島「ツグガラオ」着。</p> <p>太刀洗出発。</p> <p>主力戦力恢復のため太刀洗に帰還。</p> <p>の一部「クラーク」に転進。</p> <p>「ネグロス」島「マナベラ」および「ミンダナオ」島「デルモンテ」の整備隊</p> <p>台湾沖航空戦参加。</p> <p>主力「クラーク」地区に転進爾後同地にありて防空に任ず。</p>					

	20	20	20	20	20	自 19	至 19	20	昭 20
19	20	20	20	20	20	12	10	5	4
12	5	5	4	4	1				
11	30	1	中	2				30	下
<p>「エチアゲ」に集結第四飛行師団長の指揮下に入る。</p> <p>部隊復帰に伴い第四飛行師団司令部、独立飛行第五二中隊、第一三五飛行場大隊の各隊に転属。</p> <p>○「ネグロス」島残置隊（約一二〇名）の行動</p> <p>「マナベラ」飛行場において「レイテ」作戦及び「ミンドロ」作戦参加。</p> <p>「フアブリカ」に集結江山中佐の指揮に入る。</p> <p>「マンダラガン」山南部陣地に転進開始。</p> <p>「マンダラガン」陣地に到着爾後同地において地上戦参加。</p> <p>西太郎山陣地に配備、地上戦参加。</p> <p>部隊復帰に伴い現地部隊に転属。</p> <p>○「ミンダナオ」島残置隊（約六〇名）の行動</p> <p>小艇で「カガヤン」出発「ネグロス」島に転進途中敵潜水艦の攻撃をうけ沈没（救助された者船員六名、兵二名）</p>									

140の5

五三

戦隊長

少佐	中佐
佐藤	神崎
真一	清

1572